

清経通信

せいけいつうしん

発行：株式会社クリアストリーム・コンサルティング



項目

巻頭コラム

2025年の年頭に思うこと - 1

支援の現場から
経営の4つの基本原則 - 3

経営サプリ - 3

弊社からのご案内 - 4

編集後記 - 4



巻頭コラム

2025年の年頭に思うこと

新年あけましておめでとうございます。

昨年は元旦早々から大地震で幕を開けた一年でしたが、今年はやかな年明けになりました。願わくば、平穏な一年になってほしいものと思います。

一方で、平穏であり続けるために考えないといけないことは、何も自然災害ばかりではないのだ、とも思います。ふだん私のようなコンサルタントは、企業や組織を対象にしてもの考えます。けれど最近私はよく、経営学で学んだ知識や考え方を私たちの社会や国全体に当てはめて考えることが増えてきました。そもそもマネジメントの世界で使われている“戦略”をはじめとする多くの考え方は戦争論から始まっていることを考えると、経営の知見を国全体に広げて用いることは何ら不思議でもありません。

巻頭コラム 2025年の年頭に思うこと

そうしてみると、私たちの社会や国はいくつもの不安材料を抱えているなあという思いに至らざるを得ません。

いくつか例を挙げてみましょう。

企業経営では、ビジョンが必要だといつもお伝えしています。ビジョンがなければ成り行き任せの経営になってしまい、いい結果は出ないものです。では、いまの我が国のビジョンは何なのでしょう。私にはよくわかりません。

私のコンサルタントとしての主たるテーマは、“企業（組織）の変革”です。だから、この観点から助言をしたり、研修でお伝えしたりすることも多くあります。その中でお伝えしていることは、例えば次のようなことです。

- ・衰退する企業では外部（競合企業など）に向ける意識が低くなっていて、内輪の話ばかりしている。場合によっては、そんなこと（競合など）は考えないという社員がたくさんいたりする。
- ・衰退する企業では、社内で足の引っ張り合いばかりしていたり、同じ議論や話題が何年にもわたって繰り返し行われたりしている。（だから、進歩が生まれず、結果として競合に後れを取っていく。けれど、そもそも競合に意識を向けていないから、そうした結果になっても悔しいといった感情さえ生まれにくい。）
- ・健全な組織（企業）では、いい意味での危機意識をみなぎ常に持っている。一方、衰退する企業では、危機感のない社員ばかりになっている。

すぐに思いついたこの三つを我が国の現状に当てはめて考えてみるとどうでしょう。私には、いずれも思い当たることばかりなのですが。

ところで、アメリカではいよいよトランプ政権が誕生します。おそらく今年、そしてこれから数年間のアメリカは、かなり多くのことが変わっていくだろうと思います。劇的に変わるかもしれません。巷では「トランプ2.0」という言葉が生まれているようですが、私は、「3.0」もしくは「4.0」といったレベルまで強化された政権になっていくのではないかと思います。それだけ、トランプ氏やDOGE（政府効率化省）を任されるイーロン・マスク氏などから“本気”を感じるためです。少なくとも、彼らには明確なビジョンがあるのがよくわかります。

変化するときの常でアメリカでは大きな混乱も生まれるでしょう。ただ、大切なことは変わることです。変わることによってのみ、進歩のための道が開かれるのだと思います。

さて、翻って我が国は、今年を進歩する年にすることができるのでしょうか。

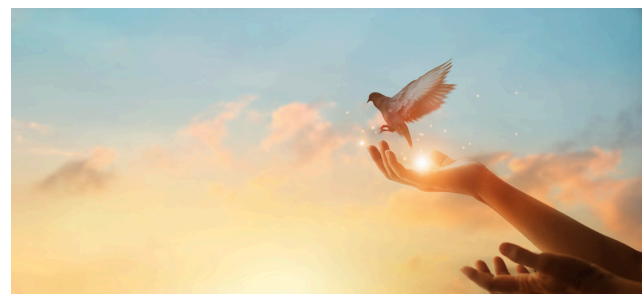
年が明けてから、「2025年、日本がもっと『後進国になる』根本理由、世界は動いているのに10年間、時計の針が止まった日本の末路」（東洋経済ONLINE, 野口悠紀雄氏）という記事を目にしました。そこには、次のような記載があります。

「IMFの予測によると、2025年にインドに抜かれて、（日本のGDPは）世界第5位になる。近い将来に、イギリスやフランスに抜かれる可能性もある。」※（）内追記

「成長しているのは、G7諸国だけではない。アジア諸国の成長はもっと顕著だ。日本は、2024年に一人当たりGDPで韓国や台湾に抜かれた。こんな事態になるとは、10年前には考えたこともなかった。この10年の間に、世界の多くの国々が成長を遂げたのだ。そして、日本は変わらなかった。だから日本の相対的な地位が低下したのだ。」

企業の経営も、国の運営も同じです。

経営者の皆様におかれては、まずは自社を変革する（＝良くする）一年にしていきたいと思いません。



支援の現場から

”経営の4つの基本原則

年初にあたって、多くの企業さまで新たなスタートを切られていることと思います。決算期はそれぞれ違って、新年は改めて身が引き締まります。こういう時期は、経営を今一度みなおすチャンスかもしれません。

以前にもこの欄で書きましたが、私は経営するうえで4つの大切な原則があると考えています。それは、「絞り（ポイント）とバランス、スピードと完遂」の4つです。それぞれの意味は下記のとおりです。ぜひ今一度、振り返ってみて頂いてはどうでしょうか。

- ①絞り： ポイントをしっかり絞ること、つまりどこに焦点を当てて経営するかを常に考えることが大切です。自社ならではの強みを持つということもつながります。そうした絞りや強みを持つことが、他社との差別化要素（優位性）を生み、顧客に響く（訴求する）会社になっていくことになります。
- ②Balance： 常に経営のバランスをとることが大切です。一生懸命に日々の業務に打ち込めば打ち込むほど、経営のバランスを崩してしまう企業が多いものです。例えば、製造は一生懸命しているが営業が疎かになっている、短期的な視点ばかりで将来のことを考えていない、コスト削減については厳しく認識しているが人材育成などの投資ができていない、などはその最たる例です。
- ③ Speed： 経営は常にスピード感が大切です。たとえ良いアイデアであっても、競合に先を越されてしまえば全く意味がなくなります。また、スピードが遅いとその間に無駄なキャッシュを使う、やる気がある社員の心が離れるなどのデメリットが大きくなります。
- ④ 完遂（Complete）： 何事も「正しく、徹底的にやり抜く」ことが大事です。いい加減なやり方や中途半端なやり方でやっていると決して成果は出ません。そのことに気づかないままだめだったと決めつける人が多いものです。これではいつまで経っても何もしえないままです。



経営サブリ

「自分には自分に与えられた道がある。天与の尊い道がある。（中略）
道を開くためには、まず歩まねばならぬ。心を定め、懸命に歩まねばならぬ。
たとえそれが遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな道が開けてくる。」

「どんな仕事でも、それが世の中に必要なればこそ成り立つので、世の中の人びとが求めているのでなければ、その仕事は成り立つものではない。
人びとが街で手軽に靴を磨きたいと思えばこそ、靴磨きの商売も成り立つので、
さもないと靴磨きの仕事は生まれもしないであろう。
だから、自分の仕事は、自分がやっている自分の仕事だと思わないこと、
ほんとうは世の中にやらせてもらっている世の中の仕事なのである。
ここに仕事の意義がある。」

「川にダムが必要なように、暮らしにもダムがほしい。物心ともにダムがほしい。
ダラダラと流れっ放し、使えばなしの暮らしでは、誠に知恵のない話。（中略）
個人の暮らしの上だけではなく、商売の上にも、事業の経営の上にも、このダムの心得が
ぜひほしい。そしてさらに大事なことは、国家の運営にあたって、このダムをぜひ作りたい。
国家と国民の安定した真の繁栄のために。」

「道を開く」（松下幸之助）

「道を開く」は、1968年に初版が発行されました。アマゾンで見るとすでに286刷568万部も販売されています。今回の巻頭コラムで「企業の経営も、国の運営も同じ」と記しましたが、幸之助さんの言葉にも影響を受けてきたのかもしれない。

道を開く
松下幸之助

The Path

道を開く
松下幸之助
1968年11月1日初版発行
1999年11月1日改訂版発行
2019年11月1日改訂版発行
ISBN 978-4-16-790000-0

弊社からのご案内

◆ 経営力診断コンサルティング

経営のどこがうまくいっていて、どこに弱みや問題・課題があるか、正確に把握しておくことはとても大切です。健康のために人間ドックが必要なように、企業も定期的に健康診断を受けておけば、正しい対策がとれるようになります。半日の速修コースと、社員面談なども含めた1日コースがあります。

◆ 経営力強化研修

経営力診断コンサルティングで明確になった課題を解決するために必要な経営知識やスキルを、簡潔にわかりやすく習得していただくための研修です。ピンポイントで必要な力が身につくので、無駄がありません。経営者に必要なマネジメント知識のほか、売上アップのためのIT力強化、若手社員の育成などにも対応します。

問題は早めに手を打つほうが望ましいです。何かお困りがあればご相談ください。

※費用はいずれも、半日5万円から。

編集後記

- 今年は長い年末年始の休みとなりました。仕事でやらなければいけないことを一通りやり終えた後は、本を読んだり映画を観たりして過ごしていました。
 - 本については「イーロン・マスク上」を手に取りました。これまでマスク氏のことはあまりよく知らなかったのですが、これからの世界を変えていく一人だともう少し知っておこうと考えたためです。
 - 映画は年末に「善き人のためのソナタ」というのを、予備知識なしであまり期待せずに観たのですが、とても良かったです。ひょっとしたら、これまで人生の中で観た映画のベスト10に入るかもしれません。原題を英語にすると「The Lives of Others」となり、「他人の生活」という訳が見られますが、生活より命と訳したほうが適切じゃないかと思います。とにかくラストが秀逸です。嫌なニュースばかりの毎日ですが、人間の素晴らしさが静かに伝わる名画だと思います。
- ※令和6年11月は業務の都合で休刊いたしました。



経営理念

働く人一人ひとりの思いを大切にしながら、経営者・従業員ともに誇りを持っていきいきと働くことのできる職場作りを実現することで、社会貢献いたします。

弊社がご提供する主なサービス

◆人づくり・組織づくりに関する支援内容◆

事業計画作成、組織の仕組み・風土づくり、リーダー人材（自律型人材）育成 ほか

◆営業強化に関する支援内容◆

ホームページ作成、販売促進策の強化、新商品開発、ブランディング開発（ブランド力向上）



(株)クリアストリーム・コンサルティング

〒657-0041 神戸市灘区琵琶町1-1-24 六甲ビル3F

tel: 090-2356-0960 mail: ito@clrstm.co.jp url: <https://clrstm.co.jp/>